



第1章

東アジアにおける安全保障リスク

東京大学東洋文化研究所 准教授
佐橋 亮

【ポイント】

- 安全保障をめぐるリスクが東アジアでは近年一層に意識されている。主権が行使される領域だけでなく、海上交通・航空交通、地下ケーブル問題を含むサイバー空間などに広がるだけでなく、重要技術の流出やサプライチェーン上の供給遮断などでも、広く安全保障に係わるリスクが認識されるようになっていく。
- 日本は自由主義的な国際秩序の維持と、周辺環境の安定をともに追求し、外交・安全保障政策を展開してきた。米中対立の固定化、中国の軍事・政治・経済領域における行動によって、そのような方針には限界が見えはじめた。日本政府は伝統的安全保障だけでなく、経済安全保障を精緻化し、実践することでリスクの抑制につなげようとしている。
- 他方で、リスクには緩和という視点も必要であり、そもそもリスク認識やリスク・コミュニケーションの視点も日本や米中に欠けているところがある。日本は中国にリスク緩和のための具体的な取り組みを求めるべきだが、自らもその戦略の実像を明確に伝える必要がある。



注目データ

東アジアの安保リスクの所在が変化し、領域が広がっている

日本にとっての
東アジア安全保障リスク



伝統的安全保障

新しい課題として浮上する経済安全保障

注)

自由主義的な国際秩序の揺らぎが根底に

リスク認識・リスク・コミュニケーション上の課題もある

対処

- 抑止・抑制 …
- リスク緩和 …

国力の成長と対米同盟の両立を図る

意図を正確に把握し、コミュニケーションを密に

資料：筆者作成